

平成 29 年 2 月 3 日

世田谷区立船橋希望中学校
校長 加藤 敏久 様

世田谷区立船橋希望中学校
学校関係者評価委員会
委員長 鈴木 滋

平成 28 年度学校関係者評価結果報告書

学校関係者評価委員会において、「学校評価システム」に基づき、関係者アンケート調査の結果の分析や自己評価の結果及び日常の教育活動や校外活動等について、総合的な評価を行い、以下のとおり報告書を作成いたしました。

今後の教育活動及び学校運営にご活用いただき、船橋希望中学校（船橋希望学舎）がより一層発展されることを委員会一同、祈念いたします。

☆ 関係者アンケート調査結果の分析の観点と評価について

1、「とても思う」「思う」の割合の合計を「肯定的評価」と捉えた。

「肯定的評価」の割合が、生徒は 60%以上、保護者は 50%以上の項目を、「評価が高い項目」とした。また、生徒は 80%以上、保護者・地域は 70%以上の項目と、「とても思う」の割合が 30%以上の項目については、「特に評価が高い項目」とした。

2、「あまり思わない」「思わない」の割合の合計を「否定的評価」と捉えた。

「否定的評価」の割合が、生徒・保護者・地域ともに 25%を超える（4人に1人が否定的）項目を、「課題がある項目」とした。また、40%を超える項目や「思わない」の割合が 20%程度の項目については、「特に課題がある項目」とした。

3、「分からない」の割合については、25%を超える項目に注目した。

「分からない」の割合が多い原因を検討するため、生徒については、校長・副校長などの教職員に意見を求めた。また、保護者については、アンケートの「記述式のまとめ」や保護者会等での資料などで学校の広報の状況を参考にして分析した。

4、船橋希望中学校の前年度アンケート調査結果と比較して検討した。

本校の目標やそれを達成するための取り組みを適切に評価するため、アンケート集計結果の分析については、以下の3点で評価した。

① 基本的には昨年度のデータとの比較検討し、昨年度と同様の上記の規準により評価した。この報告書の括弧（ ）内の数値は、昨年度の数値である。

② 生徒は 60%以上、保護者は 50%以上の「評価が高い項目」であっても「否定的評価」の割合が 25%を超える項目については「課題がある項目」と捉えて分析をした。

③ 学年毎の生徒と保護者の評価については、学年進行を考慮した比較検討も行った。2年生で1年生のデータと比較検討を行った場合、1年生のデータは《① 》と表記した。3年生で2年生と1年生のデータと比較検討を行った場合も同様で、1年生のデータは《① 》、2年生のデータは《② 》と表記した。

5、保護者アンケートの「記述式のまとめ」の内容については、1人の意見を重視しすぎて、全体の状況を見誤らないように配慮した。また、少数ではあるが重要だと判断した意見については、分析に活用することとした。

☆ アンケートの回収率について

アンケートの回収率については、生徒 95.3% (27年度 96.7%) (26年度 95.0%)、保護者 65.0% (27年度 71.3%) (26年度 71.0%)、地域 24.0% (27年度 61.8%) (26年度 55.8%) であった。

生徒は、昨年度と比べ回収率が若干低かった。生徒の回収率については、100%になるよう、さらなる生徒へのアプローチを検討されたい。

保護者は、回収率の目標である 70%を超えなかった。回収率の向上に向けた広報活動・情報提供に努力されたい。

地域は、昨年度から地域関係者への配布先の見直しを行い、昨年度は高い回答率が得られた。

しかし、今年度は、大幅に低下した。地域学校教育への参画による関係者の意見が反映され、改善に直接つながる姿を見ていただくことが船橋希望学舎の使命であると考えます。

「地域とともに歩む学校」として、アンケートの配布数と回収方法等を改善して、高い回収率を維持されたい。

<評価項目に沿った評価>

☆ 関係者評価・教職員の自己評価等を基にした本校の成果と課題

I、重点目標への取組について

生徒は、「8 重点目標および数値目標(独自項目)」のうち、学校教育目標について(1)「私は、友達など他の人に対し、認め合い、励まし合おうとする気持ちがある」、(2)「私は、深く考えて行動し由とする気持ちがある」、(3)「私は、磨きあい、高め合おうとする気持ちがある」の項目で、保護者及び地域は、「学校運営について」の(1)「学校の重点目標が明確である」の項目で評価した。

全般的には「評価が高い項目」である。

教育目標の周知とその定着への取り組みについては、徐々に生徒に浸透してきている。特に、(1)・(2)については、教職員の働きかけにより、日常生活や特別活動等の取り組みで定着してきている。また、(3)は「評価が高い項目」あるが、72%と目標の80%には至らなかったが、浸透してきている。発達段階により指導の仕方は異なるが、3年間で「教育目標」を達成させようとする教職員の意気込みが伺われる。

保護者および地域については、「平成27年度改善方策に対する改善結果」の「1. 学校全体にかかわる広報活動の充実」で、組織的に「学校だより」やホームページ等で広報活動に取り組み、丁寧な説明に心掛けた結果、重点目標が浸透してきている。

校長講話及び「学校だより」、そして、教職員の日常生活や特別活動等の働きかけや取り組みで、生徒は学校教育目標を意識して行動しようとする姿が見られ、浸透してきた。

II、地域との連携・協働による教育について

○保護者・地域との連携

- (1) 地域運営学校(学校運営委員会)

保護者・地域とも「地域との連携について」(4)で評価した。

学校運営委員会の活動について様々な課題を協議し、多くの場面で協力をいただいている姿について十分な情報が提供された結果、保護者・地域ともに認知度が向上してきていることで、保護者・地域の意見を反映して運営されていることが窺える。また、教職員の認知も向上してきている。

(2) 学校協議会等

保護者・地域とも、「地域との連携について」の(3)の項目で評価した。

保護者は、学校協議会や合同学校協議会の活動について十分な情報が提供された結果、「特に評価が高い項目」である。

地域は、昨年度と同様本年度も「よく役割を果たしている」で評価したが、十分な情報が提供された結果、大幅に改善された。今後も、船橋希望学舎として活動内容や必要性について、さらなる情報の発信をしていただきたい。

(3) 地域の人材や施設の活用

保護者・地域とも「地域との連携について」の(1)で評価した。

保護者・地域とも、高い評価を得ている。「ふなきぼサポートクラブ」の組織的・計画的な活動が定着しており、保護者・地域と教員に十分な情報が提供された成果である。

(4) 地域行事等への参加・協力

保護者・地域とも「地域との連携について」の(2)で評価した。

保護者・地域ともに、「学校が地域の活動や行事によく協力している」の肯定的評価は高く、学校と地域が良好な協力関係にあると、認識している。

保護者・地域との連携は、全項目で高い評価である。

伝統ある「子どもぶんか村」の行事を始め、世田谷版「学校支援地域本部モデル校」として、学校支援コーディネーター等と相互の協力体制を図り活動した結果である。今後も広報活動に努力し、保護者・地域と学校の連携を図り、さらなる協力関係を深め、生徒が地域の一員としての自覚と故郷への誇りをもって活躍できるように取り組み、その活動内容や必要性について関係諸機関へ、随時発信していただきたい。

Ⅲ、「世田谷9年教育」で実現する質の高い教育の推進について

1、学習指導

生徒及び保護者は、「1 学習指導について」の4項目で評価した。生徒・保護者ともに「評価が高い項目」で、学校の取り組みは良好である。

生徒の学習指導全般については、全学年「特に評価が高い項目」である。生徒は現在の学習指導に満足している。特に、生徒全体で「肯定的評価」の割合が80%を超えているのは、学校経営方針2-(1)学習指導(ア)教科等①～⑦が実践されていることによる。

教職員の自己評価も、昨年度と同様高い評価で、授業改善の取り組みが進んでいる。

ここ数年にわたり課題である授業の開始・終了時間については、昨年度より改善されてきているが、否定的評価の割合に課題がある。日常の授業の状況については、なお一層の改善を図りたい。

保護者は、全般的に学習指導について肯定的な評価をしているが、保護者の学習内容や学習指導に対する期待に十分に答えられていないことが課題である。特に、「授業を通して生徒に

学力がついているか」と「通知表で評価されたことは、納得できる」について、評価基準についてはホームページを活用していただきたい。さらに、各教科等の観点別評価については、生徒及び保護者にわかりやすく説明し、周知する必要がある。特に、3年生は学年進行とともに評価が低くなっており、課題である。

「平成27年度学校関係者評価委員会の報告を受けた改善方針」の「2.『学力』について」で、3項目の取り組みが示されているが、3年生は、否定的評価が高い。

すでに本年度から各教科の学習において、アクティブ・ラーニングと主体的・対話的な深い学びを求める授業実践を展開されているが、より一層の創意工夫が必要と考える。また、学習に関して、まだ理解が十分でない生徒への対応として、家庭学習や補習など学校の取り組みが理解されていない部分もある。より高い水準をめざして、グローバル社会に対応した学校図書館や日常的な情報通信技術（ICT）の活用と対話を重視した授業及びタブレット端末を効果的に活用し、多様な学習の機会を提供して学習指導の改善・充実や教育環境の充実等を図っていただきたい。

さらに、各学年の保護者の学校への期待度を把握し、家庭と連携して基礎的・基本的な知識・技能の定着、基礎学力の向上を図る必要がある。また、保護者に対して「学力の捉え方を啓発する必要がある」と「平成28年度 自己評価報告書」に記載されてように、ぜひ保護者会等で「新しい学力観」について説明する機会を設け、保護者の学力に対する意識を高めてほしい。それとともに、学校・学年の取り組みについて、丁寧に時間をかけて説明し、説明したことを実践していくことが必要と考える。

2、生活指導

生徒及び保護者・地域ともに「2 生活指導について」の3項目で評価した。

生徒は、3項目とも全学年で肯定的評価の割合が高く「特に評価が高い項目」である。生徒は学校の規則を守って行動し、教師の指導に納得して学校生活を送っている。このことは、毎年、教職員の自己評価で、社会の一員としての自覚や生活ルールなどの指導を実践しており、評価が高いことに反映している。

生徒の教育相談活動に関しては、青年前期の心の変化をとらえ、常に生徒が安心して学校生活を過ごせるよう生徒のきめ細かな指導にあたっている。さらなる相談しやすい環境づくりとカウンセラーや支援員等、多くの人が生徒とかかわる体制づくりに努めていただきたい。

保護者は、個別の学年では課題があったが、全般的には「評価が高い項目」である。中学校の生活指導の内容や方法に対して、保護者の理解が深まってきている。

地域は、生徒については肯定的評価が高く、地域での生徒の状況は極めて良好である。また、教員の地域での行動も高い評価を得ている。

今後も、生徒一人一人の個性の伸長を図るために多面的な生徒理解や内的要因等の把握の深まりをとらえて引き続き指導するとともに、各家庭で指導すべきところは指導し、学校・家庭・地域が協力して生徒の健全育成に努めていただきたい。

3、学校行事

生徒は「3 学校行事について」の3項目と「8 重点目標および数値目標（独自項目）」の(6)で、保護者は「3 学校行事について」の3項目と「12 重点目標および数値目標（独自項

目)」の(2)で、地域は「2 学校行事について」の3項目と「7 重点目標および数値目標（独自項目）」の(2)で評価した。

生徒・保護者・地域の学校行事の項目は、毎年「特に評価が高い項目」である。生徒は、行事を楽しみにし、活躍するチャンス（場面）が多く、保護者は、子どもたちが活躍している様子などから学校の取り組みを評価している。また、地域からも船橋希望中学校の学校行事が高く評価されている。

これは、教職員が生徒の主体的な参加や行事の工夫・改善に取り組んでいる成果である。

4、キャリア教育・進路指導

生徒は、「4 進路指導について」の3項目で、保護者は、「4 進路指導について」の4項目で評価した。

生徒は、昨年度に比べ改善されているが、昨年度と同様に他の項目に比べて低い評価である。「平成27年度学校関係者評価委員会の報告を受けた改善方策」の「1 生徒の『進路指導』について」で、(1)「将来の生き方や進路について考えさせる授業がある」に対して、昨年度より「私たちの進路」に活用方法を検討し、全教育活動を通して日常的に「将来の生き方や進路」について考える機会を設けたが、肯定的評価78%（81）、否定的評価16%（13）となった。

また、(2)「将来の生き方や進路について先生と相談する機会が十分ある」55%（56）全学年で若干改善され、教職員の自己評価も高いが、生徒の否定的評価は、32%（35）であり、実感していない生徒も多い。特に1年生は、否定的評価が35%（44）で、否定的評価が35%（44）で、『分からない』と回答した生徒が19%（15%）、2年生の否定的評価も41%＜①42＞で、課題が残った。さらに、(3)「進路に関する情報が十分提供されている」も同様で、肯定的評価61%（59）、否定的評価29%（54）で、大きく改善されてきてはいる。しかし、「分からない」の割合が1年生39%（34）、2年生29%（31）と高いことが課題である。いつでも相談できる雰囲気づくりと、上級学年が行っている進路の取り組みを「学年だより」等で紹介するなど改善方策に対する結果は不十分であり、より一層の周知を要する。

保護者は、4項目とも「評価が高い項目」になったが、「平成27年度学校関係者評価委員会の報告を受けた改善方策」の取り組みで、各学年で情報提供など学校・学年で取り組み努力しているが、生徒・保護者に認知されていない面がある。また、進路相談については、1・2年生で個人面談など相談の機会があっても効果的に活用されておらず、「分からない」の割合が高い。

系統的・計画的なキャリア教育を推進するための全体計画の周知とアンケートの時期等も課題である。

5、体育・健康教育・食育

保護者の「11 学校全般について」の(4)で評価した。

一昨年度、昨年度に続き、大幅に改善され、高い評価である。しかし、この項目は、教職員の評価との乖離があり、全学年で「分からない」の割合が比較的高い。このことについては、検討課題である。

6、世田谷9年教育

生徒は、「7 学校全般について」の(3)で、保護者は、「8 広報活動・情報提供について」の

(5)と「9 地域との連携」の(5)で、地域は、「4 広報活動・情報提供について」の(5)で評価した。

生徒は、「船橋希望学舎」の区立小学校（船橋小・希望丘小・千歳台小）との交流について、「あいさつ運動・小6見学会・学芸発表会・世田谷子ども駅伝」などに一部の生徒ではあるが関与していることで、否定的評価20%（27）、「分からない」20%（23）であり、改善されてきているが、生徒全体の交流はいま一歩である。

保護者は、「学び舎」の活動の情報提供は、生徒の「あいさつ運動」や各小・中学校のPTAの交流や講演会も行われ、その活動が「学校だより」等で提供された結果、保護者に「学び舎」が認知されてきたと考える。「船橋希望学舎」の小学校についての情報提供についても、「8 広報活動・情報提供」の成果で大幅に改善されてきている。また、教職員の小・中相互の授業参観や合同研修会等により連携体制が充実してきている。今後も、地域を含め、さらなる情報発信を継続していただきたい。

7、部活動

生徒は、「5 部活動について」の3項目で、保護者は、「5 部活動について」の3項目で評価した。

生徒の部活動全般についての評価は、生徒の希望が叶い、複数顧問制等を採用し企画・運営面において工夫されてきており、肯定的評価87%（84）と高い評価である。また、校庭・体育館等を含めた施設の面や中学生として望ましい部活動の回数と時間についても、スケジュールの再考などを通して、子どもたちの理解が深まってきている。しかし、多様化した部活動の種目に対応した「入りたい部活動」については評価が低い。

保護者は、部活動が全般的には適切な指導のもと充実しており、生徒が活躍していると感じている。

教職員は、自己評価での部活動の活発さの肯定的評価が高いが、一昨年度、昨年度と同様、組織的实施の評価が若干低い。また、教職員は奮闘しているが、思うような時間が取れない状況である。教職課程を受講している大学生を外部指導員とするなどの取り組みを継続し、課題解決にあたっていただきたい。

IV、信頼と誇りのもてる学校づくりについて

1、学校経営・学校運営

保護者は「6 学校運営について」の(2)と(3)で、地域は、「3 学校運営について」の(2)で評価した。

学校経営・学校運営に関しては、「学校全体にかかわる広報活動の充実」の取り組みの成果で、年々肯定的評価が向上し、保護者・地域から高い評価を得ている。

校長が強いリーダーシップを発揮して、全教職員の共通理解と共通実践のもと教育活動を活性化させ組織的に学校運営や教職員の指導にあたることにより、学校の取り組みや教職員の姿勢が高く評価されている。また、教職員の自己評価からも校長を中心に教職員が協力して教育活動に取り組んでいることが窺える。

船橋希望学舎としての、学校の主体性・自律性を発揮し、教育活動の成果を基盤にした学校づくりを進め、今後も広報活動に取り組み、学校経営・学校運営や教育活動について、保護者・地域に発信していただきたい。

2、教職員

生徒は、「6 先生について」の3項目で、保護者は、「7 教員について」の2項目と「12 重点目標および数値目標（独自項目）」の(5)で、地域は、「3 学校運営について」の(3)と(4)の2項目で評価した。

今年度も、教職員が様々な場面で熱心に指導しており、生徒・保護者ともに教員の指導には満足している。

生徒は、3項目とも昨年同様全学年で評価が高く、年々改善されてきている。教員は様々な場面で熱心に指導している。また、聴く姿勢についても、全体として生徒一人一人に丁寧な対応を行っており評価が高い。個別の学年で課題になるところがあるので、教員が生徒の話を聴く機会の工夫が望まれる。

教員の指導の公平性については、少しずつ改善されてきているが、生徒の評価は分かれ、昨年度と同様課題が残った。指導場面や対応時の状況によって、生徒個々の受け取り方や感じは大きく左右されることがあるので、数値のみでの判断は難しい。指導場面でのさらなる工夫と生徒一人一人と丁寧に話す時間や機会を意図的につくっていただきたい。

保護者・地域については、保護者は「8 広報活動・情報提供について」の(2)「本校は、保護者に対し、ていねいに説明や対応をしている」の評価も併せて考察した。

この項目も昨年同様評価が高く、地域の評価と総合的に判断すると、保護者・地域に丁寧な説明や対応で高い評価を得ている。しかし、保護者の教員と「話しやすい雰囲気」については、個別の学年で課題があった。今後は、保護者が来校した際には、職員室など様々なところで相談しやすい状況を作り出す、さらなる努力が必要と考える。

3、保健・衛生管理（学校環境・学校給食）

保護者の「10 学校の安全性について」(5)で評価した。

今年度も、学校環境・学校給食について、学校が生徒の安全確保に努力していることが認知され評価が高い。

4、安全管理

保護者は「10 学校の安全性について」の(1)から(3)の項目で、地域は「6 学校の安全性について」の(1)・(2)の項目で評価した。

学校の安全性については、学校で生徒の安全確保に努力していることが認知され評価が高い。また、安全指導・避難訓練や災害時の保護者・地域との協力などについても評価が高く、昨年度と同様に学校の取り組みが理解されている。また、地域の避難所としての役割が十分に理解され、改善されてきている。ただし、災害時の域内での自主防災組織や各家庭における災害時の第一・第二避難場所等についての再確認が必要である。

5、広報活動・情報提供

保護者は「8 広報活動・情報提供について」(1)から(4)の項目で、地域は「4 広報活動・情報提供について」の(1)～(4)の項目で評価した。「I 重点目標への取組の成果と課題」と同様、「学校だより」、毎週発行される「学年だより」、学校支援組織運営部によるホームページなどで、生徒の様子など様々な情報を確実に発信してきたことで、保護者の知りたい情報が盛り

込まれ、高い評価を得ている。また、生徒への指導の場面や保護者会等で丁寧な説明や対応に心掛けた結果、学校の様子が発信できている。

地域も保護者と同様に、3点の改善方策が確実に実施された成果で、肯定的評価の割合が高い。しかし、情報機器の変化によりスマートフォンによる情報交換が増し、ホームページへのアクセスがいま一步であることと、生徒自身が情報を精査して家庭に伝えているのか、保護者に十分な情報提供がなされていない状況にある。一層の広報が必要である。

V、安全安心と学びを充実する教育環境の整備について

保護者は「10 学校の安全性について」(4)で、地域は「6 学校の安全性について」(3)で評価した。

施設・設備の安全性の確保だけでなく、教育環境としての整備が進んだことの認識が保護者・地域に浸透し、高い評価である。今後も施設・設備の不備や変更の状況について、保護者・地域への丁寧な説明や広報を期待したい。

VI、学校生活全般について

生徒は「7 学校全般について」の(1)と(2)の2項目で、保護者は「11 学校全般について」の(1)から(3)と(5)の4項目で評価した。

生徒は、学校全般について、教職員の様々な努力により、生徒が満足していない教育活動もあるが、「とても思う」という評価が50%前後である。教職員の様々な努力により、現在の中学校生活に十分に満足しており、今後も生徒にとって、「楽しい学校」・「好きな学校」であり続けるように、教職員の様々な努力を継続していただきたい。

保護者についても、子どもたちが楽しい学校生活を送り、学校全体に活気があると感じている。また、教育活動全般に対する満足度は非常に高い。

スクールカウンセラーの役割についても83%(77)と高い評価で、保護者に周知されている。

VII、数値目標の取組について

平成28年度の3つの数値目標について、それぞれ評価した。

- 1、人間的な触れ合いを深める環境をつくるとともに、コミュニケーション能力を高め、豊かな心の育成を図る。

「運動会や学芸発表会では、本気で取り組み、達成感を得ることができた実感できる生徒を85%以上にする。」

生徒は「8 重点目標および数値目標（独自項目）」(6)で評価した。

(6)「運動会や学芸発表会では、本気で取り組み、達成感を得ることができた」90%(91)で、「とても思う」60%(63)であり、非常に高い評価で、目標は達成されている。

保護者は「12 重点目標および数値目標（独自項目）」(2)で評価した。

(6)「子どもたちは、運動会や学芸発表会では、本気で取り組み、達成感を得ることができた実感できる生徒を85%以上にする」の肯定的評価は97%(96)で、「特に評価が高い項目」であり、学校は保護者の期待に十分に答えている。

- 2、基礎的・基本的な知識・技能の習得とそれを活用する能力の伸長とのバランスの取れた授業

を実施し、「学ぶ意欲」を高める。

「私は、主体的に学習に取り組んでいると自覚できる生徒を80%以上にする。」

生徒は「1 学習指導について」(1)で評価した。

(1)「授業の内容はよく理解できる」87% (85) で、全学年とも非常に高い評価である。

また、3年生は「とても思う」の割合が30%を超えている。本年度も教員が質の高い授業に努め改善に取り組んだ成果で目標を達成している。

保護者の「1 学習指導について」(1)で評価した。

(1)「本校は、子どもにとってわかりやすい授業が行われている」の肯定的評価は75% (71) で、否定的評価は11% (15) と改善され「評価が高い項目」であるが、個別の学年で評価が低い点に課題がある。

3、基本的な生活習慣のより一層の定着を図り、集団での規律を大切にし、一人ひとりが大切にされ、互いに認め合い協力し合える生徒集団を育てる。

「学校のきまりを守って行動していると自覚できる生徒を90%以上にする。」

生徒は「2 生活指導について」(1)で評価した。

(1)「私は学校のきまりを守って行動している」89% (91) と肯定的評価が高い。3年生は

「とても思う」の評価が46% (1年生は33%、2年生は30%) で、ほぼ目標は達成されている。生徒は学校の規則を守って行動し、教師の指導にも納得して学校生活を送っている。

また、この項目については、社会のルールを生徒が守っているかも評価した。

保護者は「2 生活指導について」の(1)で評価した。

(1)「本校では、社会のルールを守ることに子どもたちに指導が行われている」の肯定的評価は90% (90) と非常に評価が高く良好である。

地域は「1 生活指導について」の(1)で評価した。

(1)「通学している子どもたちは、社会のルールを守っている」97% (85) で非常に評価が高く、地域での生徒の状況は極めて優秀である。

VIII、その他

本年度、生徒の独自項目を改定し、10項目から7項目とし、そのうち、(1)～(3)の3項目は「学校教育目標について」であるため、重点目標の項で検討し評価した。また、(4)は、新たな内容であり、生徒・保護者を対象とした。

日常生活や学校生活についての4項目は、(4)「私は、主体的に学習に取り組んでいる」、(5)「私は、日頃から挨拶を心がけている」、(6)「運動会や学芸発表会では、本気で取り組み、達成感を得ることができた」で、全ての項目で高い評価である。学校が重点としている学習への取り組みやあいさつは、日常生活での指導と学校の取り組みの成果である。

生徒は、Ⅲ、「1 学習指導」について満足しているが、知識・技能に限らず自ら学び、考え、判断し、主体的に行動してよりよく解決する力については、いま一步である。特に、2年生は「否定的評価」が35%と高い。自力で課題を追及したり、探究したことを発表するなどの言語活動を充実させ、家庭との連携をより一層深め、生徒一人一人の基礎的・基本的事項の確実な習得を図り、「生きる力」の育成を図っていただきたい。

保護者は、昨年度までの10項目から4項目に変更した。なお、(3)＜生徒の(4)と同一の内

容>以外は、地域の評価項目と内容を同一とした。(3)は、「評価が高い項目」で、生徒たちは、学校生活全般にわたり活気にあふれ充実した教育活動が行われていることが分かる。

学校や地域での子どもの様子の把握についての4項目は、(1)「子どもたちは挨拶をよくしている」、(2)「子どもたちは、運動会や学芸発表会で意欲的に取り組んでいた」、(3)「子どもたちは、主体的に学習に取り組んでいた」(4)「私は、お祭りに行ったり、子どもぶんか村の活動や発表会に行ったり、地域防災に参加したりなど、地域活動やボランティア活動に関心をもっている」で、学校は保護者の期待に応じて行事などを実施しており、挨拶をすることや時間を守ることに ついても、日常生活での指導と学校の取り組みの成果である。

また、生徒の地域での活動についても、昨年度から「関心をもっている」としたため、保護者の認知度が大幅に改善された。

地域は、昨年度の6項目から3項目に変更した。3項目とも「特に評価が高い項目」で、生徒は、域内においてしっかりとルールやマナーを心得、社会の一員としての自覚と行動力を発揮していることが分かる。地域の方々は、来校頻度が高く、他の項目からも学校の様子に関心をもっていることが分かる。否定的評価が減少してきている要因は、学校からの適切な情報提供により、多くの情報を得ていることに起因していると考えられる。

<学校への提言>

本年度の学校関係者評価による課題から、4項目について提言させていただきます。

1、絆を確かに、豊かな人間関係を創る

生徒が社会の一員として生きる基盤を育てるために、保護者・地域の方々が様々な形で学校の運営に参画している。しかし、教員は、限られた時間の中で生徒一人一人の成長を家庭に伝える機会が限られ、連携を密にすることは難しい。教員が生徒・保護者に向き合う環境づくりと相互の尊敬と理解が深まり、意思疎通が図れるようにしていただきたい。

2、キャリア教育の充実

きめ細かな指導と各教科における評価の一体化を図るとともに、「進路指導は生き方指導」であることを生徒・保護者に十分説明し、理解できる機会をより多く設けるとともに、ホームページ等での周知と、さらなる情報発信の環境づくりを願いたい。また、「世田谷9年教育」を踏まえ、小学校との関連を図ることも検討していただきたい。

3、新たな教育活動の推進と理解

一部改正学習指導要領の趣旨を踏まえた先行実施として、道徳科への質的な転換、E S D 活動や東京都スーパーアクティブスクール（体力向上）の指定等、知・徳・体のバランスが取れた教育の充実と定着を図る取り組みを通して、生徒一人一人が、よりよく課題を解決する資質や能力及び粘り強く課題に取り組む態度の育成をさらに進めていただきたい。

4、世田谷9年教育『船橋希望学舎』の活動

教職員の研究・研修は盛んだが、児童・生徒の交流は各種行事に一部の生徒が参加している現況である。地域コミュニティーの核として、各年度に設定された中・長期の目標を着実にを行うとともに、生徒一人一人が児童との交流や行事等を通して、船橋希望学舎の一員であることの自覚と誇りをはぐくんでいただきたい。

<総合所見>

新制船橋希望中学校が発足して、5年。「人間愛・向学心・創造力」を校是とし、「笑顔と思いやりのあふれる学校」として、すべての生徒が学び成長し続けられる教育の実現をめざして、家庭・地域との連携、学校運営体制の整備等による運営力・組織力の改善等、多くの方々のご尽力により本校の伝統文化が芽生えた、新たな誇りと挑戦の年であったことが伺える。

本年度も、昨年度の調査結果を踏まえ、「平成27年度学校関係者評価委員会の報告を受けた改善方策」を基に、校長のリーダーシップのもと、様々な改善プラン（事業案）を立ち上げ、共通理解・共通実践により、教職員が努力でして様々な改善が図られた結果であると考えます。

生徒は生き生きと活気にあふれ「学校生活が楽しい」という肯定的評価が85%、「学校のきまりを守って行動している」89%であり、「本校が好きである」85%と、各項目とも高い評価で、充実した学校生活を送っている。学校生活の基盤となる学習指導、生活指導、学校行事、部活動のほとんどの項目で、全体として前年度の調査を上回る結果であったことから、生徒は現在の中学校生活に満足している。また、今年度も全体として生徒・保護者ともに「評価が高い項目」が多く、成果が上がっている。このことは、教職員が、教育活動で協力し合いながら様々な取り組みを行い、工夫と努力を重ねた成果である。

保護者は、全般的には生徒と同様、多くの項目で前年度の調査を上回る結果であった。特に、一昨年度、昨年度、本年度と「分からない」の割合が高い項目が多くあった。昨年度、生徒・保護者で課題が見られた2年生については、3年生に進級して大幅に改善された。

しかし、生徒・保護者に広報活動の充実を十分に図っているが、粘り強く進路指導と学習相談を丁寧に行う等の、さらなる課題が残った。

地域については、全般的に船橋希望中学校の評価は高く、非常に協力的で期待も大きい。教職員の自己評価については、昨年度までの包括的な学校全体の視点に立っての評価ではなく、生徒の変容をしっかりと捉えて自己点検を行った。教職員が様々な工夫を重ね、組織的に共有し実践してきた財産を、次年度に引き継いでいっていただきたい。

本年度のアンケート集計結果では、一昨年、昨年度と年々改善されてきている。これは、校長のリーダーシップのもと、よりよい学校を創ろうとする教職員が、さまざまな教育活動に取り組み、真摯に努力した結果であり、その努力が生徒・保護者・地域の評価を得ているものであると考える。

学校運営を可能にする普遍的・永続的で盤石な礎の基、知・徳・体のバランスの取れた教育活動と教育環境の整備等を行い、今後も生徒にとって「好きな学校・楽しい学校」であり続けるよう、より一層のご尽力を期待する。

<学校関係者評価委員>

〃	阿部 由岐子	(事務局) 副 校 長	本田 仁
〃	加藤 伸昭	教 務 主 任	大居 純
〃	南 淳子	生活指導主任	吉原 滋晴
〃	宮幸 朱美	進路指導主任	山本 浩晴